産学連携コーディネート 優良事例

【NPO法人 グリーンテクノバンク支援】

◆北海道固有の森林資源再生を目指した エゾマツの早出し健全苗生産システムの確立（2010～2013年度）

共同研究機関：（国）東京大学（中核機関）、（独）森林総合研究所、北海道立林業試験場、北海道山林種苗協同組合

研究概要：エゾマツは「北海道の木」であるにもかかわらず、資源の減少が続いている。エゾマツ資源を復元するには、エゾマツの人工植栽が有効だが、エゾマツ苗木生産では、播種床における得苗率が低く、播種から山出しまでの育苗期間が6年と長いために、育苗にかかる労力やコストの低減、育苗期間の短縮という技術的な課題があった。そこで本研究では、播種床の幼苗生産技術を改良するとともに、コンテナを用いたエゾマツの早出し健全苗生産システムを開発し、北海道のエゾマツ資源の再生復元に資することを目的としている。

エゾマツのコンテナ苗のサイズ測定

北海道林業の技術者・研究者を対象にした現地検討会

課題提案者の感想： 産学官連携コーディネーターの支援に対して

東京大学
准教授　後藤晋

新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業（現場実証支援型）の提案書作成に際して、草稿段階から、**グリーンテクノバンクさんのコーディネーターに**適切な助言を頂きました。

特に、内容の要約やポンチ絵、共同研究機関の役割分担、各課題の研究要素と実用技術のバランス等、初めてこの研究助成に応募する研究者にとって、**募集要項からは分かりにくい部分について貴重なコメントを頂き、評価者の観点をイメージした提案書作成、プレゼンテーションができた**ことが、今回の採択につながったと感じています。